

[BRC Top](#)[お知らせ](#)[ご挨拶](#)[事業の概要](#)[技術研修](#)[組織図](#)[各室概要](#)[公開情報](#)[リソース検討委員会](#)[個人情報保護](#)[採用情報](#)[アクセス](#)[リソース検索](#)[利用方法](#)[提供申込み](#)[寄託申込み](#)[提供手数料](#)[支払方法](#)[総合カタログ](#)[利用者登録](#)[メールニュース](#)[関連リンク](#)[お問い合わせ先](#)

公開情報

マウス表現型解析開発チーム

若菜 茂晴 チームリーダー

1. 設定した目標の妥当性

1) BRCで実施する意義があるか

“世界最高水準のバイオリソースの整備”というセンターの目標に合致しているか？

今後増大する遺伝子改変変異等のマウスリソースの表現型解析型の充実は大きな課題である。BRCとして実施する価値は高い。世界最高水準とするには、解析数の増加に対する対応と整備が要求される。

BRCの目標達成に貢献する“道筋”は明確か？

日本マウスクリニック開設への道筋は明確に示されている。ただし、オンデマンド解析への期待は非常に高いが、現時点ではその対応は十分とはいえない。ニーズを反映した解析データの活用をめざすとよい。

2) 5年間で達成可能な目標か？

日本マウスクリニックを軌道に乗せることは五年間で可能であろう。ただ、標準化について具体的な戦略性が要求される。全体としてできる範囲の目標であるが、さらに多くを期待したい。ただしビジネスモデル構築はやさしくないのではないか。

3) 国際的な視野に立った目標か？（国際的なリーダーシップにつながる目標か？）

欧米で同時並行して進められている類似プロジェクトとの連携を持ちながら国際的なリーダーシップを発揮していく目標となっており、また独自のものを含んでいる。リーダーシップを取るための今後の戦略が重要。

2. 目標達成のための計画の妥当性

1) 目標達成に向けての具体的な計画であるのか？

マウスクリニックのための評価項目が決まっており、年間最大処理数も具体的に推定されており、目標の達成は可能であると考えられる。ただし、処理数と処理能力のバランスが重要で、処理能力が高まればより高い目標設定も可能になるのではないか。

2) センターとして優先度の高い、必須な計画か？

表現型情報の充実に近い将来のマウスリソースの価値を左右することになり、それに対応する計画となっている。マウスバイオリソースに関する外部とのインターフェースとしての役割があり、BRCにとって優先度の高い計画といえる。

3) 独創性の高い計画か？（単なる後追いではないか？）

オンデマンドクリニックは世界的にみても希な事業であり、我国の関連分野の発展に資する計画となっている。これまで我が国の一般研究者には使えなかったコラムであり、新技術の開発にも対応することで研究分野全体の底上げが期待できる。

4) 研究資源（予算・人員）範囲内で実現可能な計画か？

需要が大きくなったときには、現有体制では不安である。需要がふえた場合にすべてを処理できなくなる可能性があり、その場合の交通整理のシステムが必要になると考えられる。

5) 計画を実施するために必要な経験、実績を有しているか？

これまでのミュータジェネシス事業で培った十分な経験と実績を有している。

3. その他

処理能力以上のリクエストがあった場合の対応が問題である。年間40系統は日本全体から考えて少ないように思えるので、課金制度などをうまく利用した拡大が必要である。

